

令和4年度 筑豊地区中学校総合体育大会 柔道大会 要項

主催 筑豊地区中学校体育連盟
遠中地区各市町教育委員会
共催 福岡県教育委員会
主管 遠中地区中学校体育連盟

1 日 時

令和4年7月16日（土）・・・ 男女団体戦

受 付	8時00分
体 重 計 測	8時15分 ～9時00分
審判・監督会議	9時00分
開 会 式	9時15分
競 技 開 始	9時30分

※表彰式終了後30分間個人戦
出場者の体重測定を行う。

令和4年7月17日（日）・・・ 男女個人戦

体 重 計 測	8時15分 ～9時00分
審判・監督会議	9時00分
開 始 式	9時15分
競 技 開 始	9時30分

2 会 場

岡垣町民武道館（岡垣町野間南4-1） TEL 093-282-6111

3 参加資格

- 筑豊地区中学校総合体育大会開催基準及び『特別規定』による。
- 引率・監督は出場校の校長・教員・部活動指導員とする。コーチについては、出場校の教育職員（部活動指導員含む）とする。ただし、教育職員（部活動指導員含む）以外のコーチは、学校長が認め、筑豊地区中体連に登録し承認を受けた者とする。

4 参加制限

団体		嘉飯	田川	遠中	直鞍	合計
	男子	4	1	6	3	14
女子	オープン参加					

個人		嘉飯	田川	遠中	直鞍	合計
	男子	5	2	6	3	16
女子	オープン参加					

5 表 彰

男女とも団体戦は3位まで、個人戦は1位のみを表彰する。

6 県大会出場資格

団体戦は男女とも上位6位まで、個人戦は、各階級3位までが県大会出場の資格を得る。

7 申し込み

各地区専門部長がプロ編時にまとめて申し込みをする。

8 プログラム編成会議

- (1) 日 時 7月4日(月) 15:00～
- (2) 場 所 中間市立中間南中学校
- (3) 住 所 〒809-0021 中間市朝霧五丁目2番1号
- (4) 連絡先 Tel 093-245-4250 Fax 093-246-1170
- (5) その他 各地区専門部長は、申込用紙をまとめて持参すること。

9 各地区専門部長

地区	氏 名	学校名	学 校 住 所	TEL	FAX	専門部長
田川	山下 久之	糸田	〒822-1300 田川郡糸田町 3349	0947-26- 0027	0947-26- 1276	
直鞍	坂口 ひかり	直方二	〒822-0002 直方市頓野 4082	0949-26- 0657	0949-26- 0659	
遠中	戸川 博文	中間南	〒809-0021 中間市朝霧 5-2-1	093-245- 4250	093-246- 1170	○
嘉飯	井上 邦治	稲築	〒820-0207 嘉麻市口春 629	0948-42- 0023	0948-42- 3625	

10 出場制限

〔団体戦〕

- (1) 男子チームの編成は、監督(校長・教員)1名、コーチ1名、選手7名以内とする。
女子チームの編成は、監督(校長・教員)1名、コーチ1名、選手4名以内とする。
監督・コーチは各学校よりそれぞれ1名以内とする。

〔個人戦〕

- (1) 男女共に体重別とし、男子8階級・女子8階級にわける。
※階級(男子) 50kg級 55kg級 60kg級、66kg級、73kg級、81kg級、90kg級、90kg超級
(女子) 40kg級 44kg級 48kg級、52kg級、57kg級、63kg級、70kg級、70kg超級
- (2) 監督・コーチは各学校、それぞれ1名とする。

11 競技方法

〔団体戦〕

- (1) 参加14チームを4組に分け、各組でリーグ戦を行い、各組の1位・2位の計8チームによって決勝トーナメント戦を行う。
- (2) チーム間の勝敗は次のとおりとする。
 - ① 勝者数の多い学校を勝ちとする。
 - ② ①で同等の場合は、「一本」もしくは、それと同等の勝ちによる勝者数の多い学校を勝ちとする。
 - ③ ②で同等の場合は「技有」による勝者数の多い学校を勝ちとする。
 - ④ ③で同等の場合は「僅差」による勝者数の多い学校を勝ちとする。
 - ⑤ ④で同等の場合、リーグ戦では「引き分け」とする。決勝トーナメント戦では、代表戦を行い必ず勝敗を決する。代表戦に出場する選手はチームの任意により1名を選出する。
- (3) リーグ戦の順位は次のとおりとする。
 - ① 3勝、2勝1分、2勝1敗、1勝2分、1勝1敗1分、1勝2敗、3分、2分1敗、

1分2敗、3敗の順とする。

- ② ①で同等の場合は、リーグ戦を通じて勝者数の多い学校を上位とする。
- ③ ②で同等の場合は、リーグ戦を通じて「一本」もしくはそれと同等の勝ちによる勝者数の多い学校を上位とする。
- ④ ③で同等の場合は、リーグ戦を通じて「技有」による勝者数の多い学校を上位とする。
- ⑤ ④で同等の場合は、リーグ戦を通じて「僅差」による勝者数の多い学校を上位とする。
- ⑥ ⑤で同等の場合は、リーグ戦を通じて敗者数の少ない学校を上位とする。
- ⑦ ⑥で同等の場合は、リーグ戦を通じて「一本」もしくは、それと同等の勝ちによる敗者数の少ない学校を上位とする。
- ⑧ ⑦で同等の場合は、リーグ戦を通じて「技有」による敗者数の少ない学校を上位とする。
- ⑨ ⑧で同等の場合は、リーグ戦を通じて「僅差」による敗者数の少ない学校を上位とする。
- ⑩ ⑨で同等の場合は、代表戦（1名）により順位決定戦を行う。

〔個人戦〕

- (1) 個人戦は階級別トーナメント戦を行う。
- (2) 得点差が無い場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。
- (3) 延長戦の勝敗は、改正ルールを適用せず、技による得点がない場合、「指導」差が上回った時点で決する。

12 競技規定

- (1) 国際柔道連盟試合審判規定、「少年大会特別規定」（2022年4月1日より施行）及び本大会の申し合わせ事項による。
- (2) 勝敗の判定基準は、団体戦においては、「一本」「技有」又は「僅差（指導の差2以上）」とする。
個人戦においては、「一本」又は「技有」または「僅差」以上とする。
- (3) 代表戦の判定基準は団体戦と同様とするが、3分間の本線で得点差がない場合、延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。延長戦による勝敗の決定方法は個人戦と同様とする。
- (4) 優劣の成り立ちは以下のとおりとする。
{「一本」=「反則勝ち」>「技あり」>「僅差」}
- (5) 試合時間は、個人戦、団体戦ともに3分間とし、延長戦は無制限とする。
- (6) 競技規則に問題が起こった場合は、専門部会で協議する。
- (7) チーム編成（オーダー）は、体重順とし一番軽い者が先鋒、一番重い者が大将とする。
また、選手6.7（選手の4）を入れる場合も同じ。
（体重が同じ時は新たに入るものが先鋒に近い方とする）
 - ① 試合は、選手5名（女子3名）の対抗戦とする。
 - ② オーダーの変更は認めない。
 - ③ 一度退いた選手の再出場は認めない。
 - ④ すでに申込みをしている選手が事故のため変更するときは、大会開始前までに、これを認める。（変更届を学校長名（職印）で提出すること。）※変更の手続きとして、すでに登録してある選手6.7（選手4）からの補充を優先に行い、新たに補充する選手が、選手6.7（選手4）に再登録をする。但し、最初から選手6.7（選手4）の登録をしていない場合は、その限りではない。
 - ⑤ 欠員が生じた場合は、先鋒の方から空きとする。
- (8) 柔道衣の色は白色とし、帯は黒帯のみとし、女子の白線入りの帯は認めない。
- (9) 柔道衣にゼッケンを着用して試合をする。（学校名・名字入り）
 - ① 布地は白色とし、サイズは横30～35cm、縦25～30cmとする。
 - ② 名字（姓）は上側2/3、学校名は下側1/3とする。
 - ③ 書体は太字ゴシック体とする（明朝または楷書でもよい）。
 - ④ 文字色は、男子は黒色、女子は濃い赤色とする。

⑤襟から5cm～10cm下部の位置で、周囲と対角線を強い糸で縫い付ける。

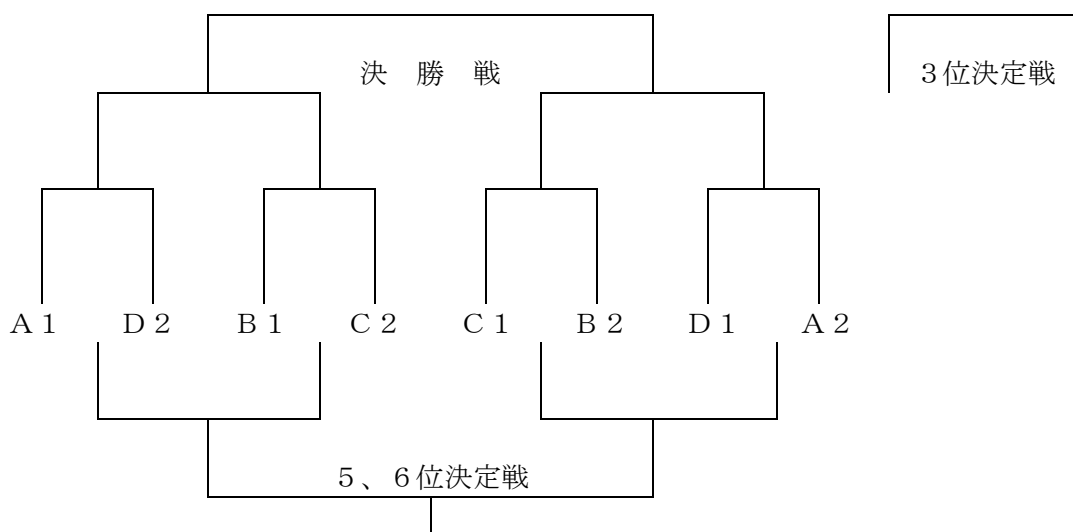
- (10) 女子は、上衣の下に白色または白に近い色の半袖で無地のTシャツ又は半袖のレオタードを着用すること。なお、Tシャツのマーキングは、全日本柔道連盟が定める規定に準ずる。
- (11) 団体戦・個人戦出場選手は、指定された期日・時間帯に体重測定を必ず行うこと。また、計測を受けなかったチーム・選手は、出場を辞退したものとする。
- (12) 柔道衣コントロールは、従来通りの方法で実施する。

13 申し合わせ事項

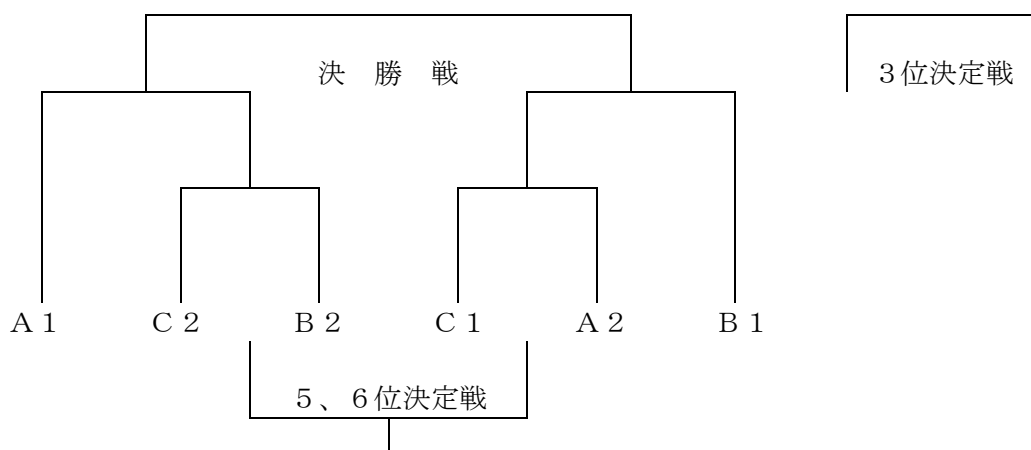
- (1) 各学校の校則を遵守し、大会に参加すること。違反がある場合は、各顧問が責任を持って試合前までに指導する。尚、改善が見られない場合は、大会参加を認めないこともあり得る。
- (2) AEDは入口横管理室に設置している。

14 組み合わせ

【男子決勝トーナメント】



【女子決勝トーナメント】



※ 団体戦・個人戦ともに組み合わせはプログラム編成会議時に行う。

15 新型コロナウイルス感染症予防対策

- (1) 「筑豊地区中学校体育大会開催に向けた感染拡大防止ガイドライン」に準じて大会を行う。
- (2) 大会当日、選手・引率者は「大会当日体調記録表」を、その他の来場者に関しては「来場者体調記録表」を提出する。
- (3) 自宅からマスクを着用するとともに、自宅で柔道衣に着替えてから会場へ入る。
- (4) 車で学校や会場等へ向かう場合に、一台に多人数が同乗しない。
- (5) 会場に手指消毒液を設置し、手指を消毒する。ハンドソープも主催者で準備する。
- (6) 2方向以上の出入口や窓を同時に開ける、常時換気を行う。
- (7) 審判員、運営スタッフ、試合に出ていない選手、応援の保護者はマスクを着用する。選手も競技中以外では着用する。
- (8) 密集を避けるため、人と人との間隔はできるだけ2メートル以上あけ、対面とならないよう工夫する。開会式、閉会式は簡素化し、短時間かつ間隔をあけた状態で行う。大声は出さず、近距離での会話や発声が極力行われぬようにする。
- (9) 共用する用具は使用前後に消毒する。
- (10) こまめな休憩をはさみ、給水用のボトルやコップ、タオルなどは共用しない。チームでのジャグタンクやウォーターサーバーなどの共有も禁止する。ドリンクはすべて自分で準備する。アイシング用のタオルや保冷剤、アイスパックなどのチームでの使い回しもしない。
- (11) トイレでの密集を避け利用する際にはハンカチを持参しトイレのフタを閉めて流すよう促す。
- (12) ゴミは、各自が責任もって持ち帰る。
- (13) 各校監督は参加した生徒や保護者、役員の情報（日時・名前・連絡先など）を記録しておく。
- (14) 大会終了後も会場入口周辺や玄関口等での密集が起こらないように各校の解散時間帯を分散させる。応援者、見学者についても、上記の項目を厳守するよう主催者が責任をもって対応、指導する。
- (15) 選手以外の入場者については、9：30までに入場しておく。
- (16) その他、詳細やさらに必要な措置についてはプログラム編成会議において協議する。
- (17) 応援者・選手の応援は拍手のみとする。
- (18) 応援者の入場については、出場選手1名に対して2名までに制限する。